

Interview

楽団員インタビュー Vol.58

お客様の前で演奏できる 喜びを忘れない

第2ヴァイオリン 河村 佳奈

Kana Kawamura, 2nd Violin



◆楽器を始めたきっかけは？

母がヴィオラ奏者で、家庭の中で常に音楽がある環境でした。4歳の時、自ら「ヴァイオリン弾きたい」と言ったのを今でも覚えています。

◆オーケストラプレイヤーを目指したきっかけは？

地元の大分県にはiichikoグランシアタというホールがあり、そこを拠点に活動するiichikoグランシアタジュニア・オーケストラに入団したのが初めてのオーケストラ経験でした。自分がソロの本番のために練習していたチャイコフスキーやモーツァルトの、オーケストラ作品を弾くことがとても面白く、また、ソロ活動だけでは滅多に触れることの無い作曲家の作品を演奏できるのも魅力であると思った経験から、何となくではありますが、中高生くらいからオーケストラ奏者になるイメージがありました。

◆好きな作曲家・曲は？

好きな作曲家も曲も沢山ありますが、ブラームスの作品はいつ聴いても心に寄り添ってくれて、包み込んでくれる優しさがあって好きです。まるで自分が子供のようになり、父母や祖父母に抱っこしてもらっているような安心感があります。彼の作品で好きな曲一つは選べませんが、交響曲第1番第2楽章の有名なヴァイオリンソロを初めて聴いた時は、あまりの美しさに鳥肌が立ちました。

◆ヴァイオリンの魅力は何ですか？

沢山の役割がこなせるオールマイティな楽器であり、それでいて音色が美しいことです。歌のような旋律を弾いたり、他のパートの伴奏をしたり、はたまた超絶技巧で魅せたりと、ヴァイオリンは小回りのきく楽器ですので、自然と様々な技が作曲家から求められます。その分、オーケストラの中では音符の数は断トツで多いと思いますが、作品のいろんな側面が楽しめます！

◆好きなヴァイオリン奏者は？

これも挙げたらキリがありませんけれど、やはりヤツ

シャ・ハイフェッツは凄いと思います。彼は技巧に関して天才的であると目を向けられがちですが、その音色は、何かに取り憑かれたような魅力があります。

その他に故人では、ヘンリック・シェリング、アルテュール・グリュミオー、ヨゼフ・ハシッド、渡辺茂夫など、本当に沢山居ます。

現役バリバリの方ではジェームズ・エーネス、ペッカ・クーシスト、オーガスティン・ハーゲリッヒ、樫本大進など。

◆使用している楽器について教えてください。

弦楽器には通常、楽器の中に「誰がいつどこで作ったか」という情報が書かれたラベルが貼ってあります。それには、1913年にLeandro Bisiachという職人がミラノで作ったと書いてあります。ただ、この楽器を買った楽器屋さん曰く、恐らくBisiach本人ではなく、その工房で弟子が作ったものであろうとのことで、実際にはいつ誰が作ったのか分かりません。でも、10年前にこの楽器に出会った時、音も見た目も一目惚れしたので、今も気に入って使っています。

◆山形でお気に入りのもの、場所はありますか？

時々友人に連れて行ってもらって、天神乃湯の露天風呂は最高に気持ち良いです♪

◆趣味や特技はありますか？

特技と言うほどではないのですが、料理が好きで、日常の中のちょっとした息抜きになっています。

◆最後に、お客様へのメッセージをお願いします。

いつも足を運んでいただいている方、初めていらっしゃる方、皆様本当にありがとうございます。コロナ禍で演奏会が全て無くなった時、やはりお客様ありきで自分が居られるのだと痛感すると共に、演奏会が再開し始めた時は、客席にお客様が居る光景を見て、胸を打つものがありました。その時の、皆様の前で演奏させて頂ける喜びと、緊張感と責任感を忘れることはないと思います。これからも一緒に、音楽を、心を、共有させて頂けるよう、日々頑張っています！